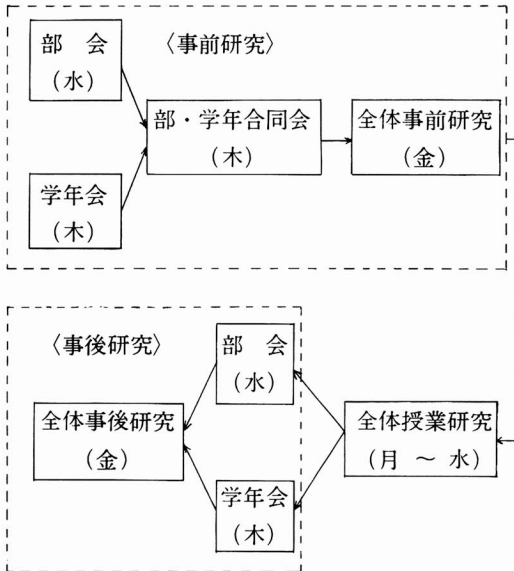
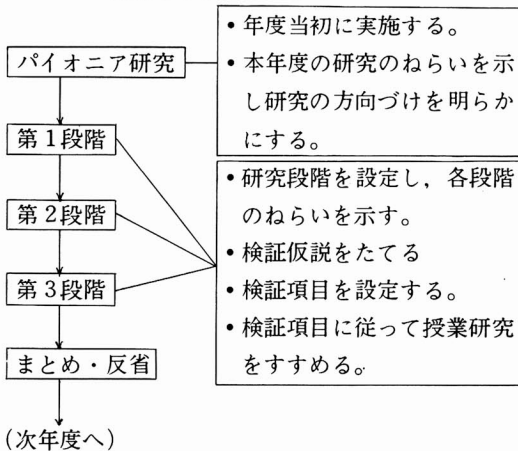


○全体研究のもち方を次のようにする。



イ. 研究方法について

- 複数仮説を設定し、研究の重点項目として、研究の視点をより具体的に提示する。
- 研究のすすめ方として



- 検証授業では、具体的な検証項目をあげ、授業の観察項目を分担し、授業観察が、しやすいようにする。
- 授業を観察する際、学級全体としての児童の反応を見るばかりでなく、抽出児、抽出グループ等の標本観察も行う。
- 教育課程に研究推進日程を位置づけ、研修日及び時間の確保を図る。

(3) 第2次調査と考察

① 改善案実施後の変容調査

調査6 本年度の研究主題、及びねらいについて、以前と比較してどうですか。

項目	人数	100%
ア. よくわかる	18	51%
イ. わかる	12	34%
ウ. わからない	3	9%
エ. 以前と変わらない	2	6%

調査7 本年度の研究のすすめ方、研究の見通し、検証方法等について、以前と比較してどうですか。

項目	人数	100%
ア. よくわかる	18	51%
イ. わかる	12	34%
ウ. わからない	0	
エ. 以前と変わらない	5	15%

〈考察〉

調査6・7の結果から見る限り、共同研究をすすめていく場合、多少でも改善の手を加えることにより、結果として効果があったことと思われる。

教育研究等における特効薬、即効性のあるものではなく、やはり地味に毎年毎年少しずつの改善を加え、昨年より今年、今年より来年と着実にすすめていくべきものであり、改善の効果を認めたい。

調査6における「わからない」と記入された方に個人面談したところ、基本的には、わかっているが自分として自信が持てないという、実に謙虚な態度で、共同研究の一員という立場からすれば、研究へ取り組む姿勢は、素晴らしいものであると思う。

調査7における「変わらない」と記入された方は、授業研究というのは、一朝一夕に変わるものでないとの考えで記入されたが、息の永い教育研究を継続す意味合いから、考慮すべきことであり、今後、研究をすすめていく上で参考になった。